Machi Bushin

ヨコハマ市民まち普請事業
整備事例集 vol.1

ふ-しん【普請】「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることに繋がっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

— 「まち普請」の記念すべき第一弾 —

みんなでつくった みんなのまち
もっと ずっと 好きになる

●まち普請ホームページアドレス● http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/machibushin/

CONTENTS

1 はじめに ― 市民のつぶやきを形にする「新らしい公共」事業 ―

2 ヨコハマ市民まち普請事業 事業のあらまし

3 地域の玄関口 舞岡バス停を 夢が舞う岡へ
整備事例1 バス停前傾斜地の緑化事業
(戸塚区)

4 花*花*花咲く まちの発明品
整備事例2 花*花に楽々水やり
(都筑区)

5 東海道に新たな歴史を刻む
整備事例4 東海道保土ヶ谷宿 松並木・一里塚等再創造プロジェクト
(保土ケ谷区)

6 まちにとどけ! 地域を守る人々の声
整備事例3 岸谷公園を中心としたまちの防災・防犯拠点の再整備
(鶴見区)

7 外に出よう! まちを彩る一坪の縁台
整備事例5 横浜寿町ホステルビレッジ街化計画
(中区)

8 里山がつなぐ ふるさとのコミュニティ
整備事例6 こどもの遊び場 ビオトープづくり
(南区)

9 命の宝箱 早渕川を丘の上に
整備事例7 高田東小学校における雨水貯留・浸透施設の設置とビオトープ整備による流域学習推進事業(港北区)

10 平成17年度選考整備助成提案グループの声

はじめに

― 市民のつぶやきを形にする「新しい公共」事業 ―

ヨコハマ市民まち普請事業整備提案審査委員会委員長
早稲田大学教授
卯月盛夫

市民活動の支援を目的に自治体が資金を提供することはすでに多くの都市で実績がありますが、市民が直接公園や道路などの公共空間および私有地を整備することに資金提供する事例はまだ少なく、その先鞭をつけたのが「ヨコハマ市民まち普請事業」です。2005年にスタートしたこの事業では、市民提案の企画を問う1次コンテスト、設計とその実現性を問う2次コンテストを経て、2007年3月に7つの提案が完成しました。通常の公共事業であれば、土地の手当から設計、工事、管理などを行政が行いますが、この事業では市民自らがそのすべてを担います。

完成した現場を見ると、市民ならではの創造的なアイデア(知恵)、多くの地域住民の奉仕活動(汗)、不足する資金の調達(寄付)の3つが巧みに組み合わされており、まさに「普請の理念」が生かされていることがわかります。

今後は、この拠点を活用した市民のまちづくり活動がさらに展開されることを期待しますが、同時にこの拠点を通じて多くの方々にこのまち普請の意義を是非伝授していって欲しいと思います。この事業は、地域コミュニティの再生に貢献すると共に、行政の役割をも再考する機会となるでしょう。

[12/18(日)]
2次コンテスト
開催

市民自ら
整備・維持管理
を実施
●整備助成金として
最高500万円を交付
●平成19年3月末までに整備完了

ヨコハマ市民まち普請事業

写真左上　1次コンテストの審査発表の様子　卯月審査委員長（写真中央）により、コンテスト当日に1次コンテスト通過提案が発表された。背景は審査委員による総合投票結果一覧表。
写真上　2次コンテストのプレゼンテーションの様子　審査委員も聴衆も聞き惚れるほど、熱意を持ったプレゼンテーションが繰り広げられた。

ヨコハマ市民まち普請事業整備提案審査委員会

●**卯月　盛夫**　審査委員長　早稲田大学教授（建築・都市デザイン）　●**木下　勇**　千葉大学教授（緑や子どもの環境デザイン）　●**嶋田　昌子**　NPO法人横浜シティガイド協会理事（まちづくりNPO）　●**鈴木　方規**　公募市民　●**名和田　是彦**　法政大学教授（公共哲学・コミュニティ論）　●**野澤　千絵**　東京大学先端科学技術センター客員研究員（地区まちづくり）　●**平岩　千代子**　お茶の水女子大学大学院客員研究員（NPO・企業・行政のコラボレーション）　●**安田　信雄**　公募市民

事業のあらまし

「ヨコハマ市民まち普請事業」は、横浜市地域まちづくり推進条例に基づく支援策のひとつとして、市民のみなさんから身近なまちの整備に関する提案を募集し、2段階にわたる公開コンテストで選考された提案に対し、最高500万円の整備助成金を交付するなど、市民が主体となった整備の支援を行うという全国的にもめずらしい事業として、平成17年4月にスタートしました。

横浜市内の住民または事業者であればだれでも応募できるこの事業は、1次、2次の2段階のコンテストによる厳正な審査を行い、整備助成の対象となる提案が決定される仕組みです。

2次コンテストでは、「創意工夫」「実現性」「公共性」「費用対効果」「地域まちづくりへの発展性」という多角的な審査基準を設けており、整備提案グループは、コンテストの場で意欲的なプレゼンテーションを繰り広げました。コンテストでは、学識経験者、市内のまちづくりに関わり多くの知識と経験を持つまちづくり実践者、そして公募市民らによる「審査委員会」が、公開の場で選考を行い、透明性、公平性、公開性を高めています。

1次コンテストには31件が応募、13件が通過を果たし、2次コンテストの結果、7件が整備助成対象提案として選ばれました。整備には、各提案グループがそれぞれの持ち味と人的ネットワークを活かし、試行錯誤を繰り返すことで、稀に見るユニークな成果として結実しました。また、そのプロセスにおいては、数知れないエピソードが生まれ、わたしたちに地域を愛する心を気づかせてくれます。

事業の流れ（平成17年度）

自ら主体となって生活環境の整備をしたい市民グループ

→ ［5/16（月）～6/10（金）］整備提案を募集

→ ［7/10（日）］1次コンテスト開催

ヨコハマ市民まち普請事業整備提案審査委員会による審査（学識経験者・まちづくり実践者・公募市民）

→ ［約5か月間］2次コンテストに向けた活動
- ●活動助成金として最高20万円を交付
- ●専門家（NPO等）を紹介
- ●関係機関との話し合い（調整）を行う場「提案検討会」の開催支援

地域の玄関口、舞岡バス停を

夢の舞う岡へ

地域の玄関口として多くの住民に利用されている舞岡バス停。背面の崖上からは富士山が望めます。雑草に覆われ、ゴミが散乱し、雨の日には土が流れ出るかもしれない同地を「何とかキレイにしたい」。地域の人々の胸には常にこの想いがありました。

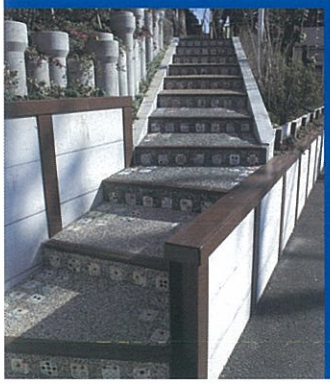
崖に丸太材で土留めし、花で崖をいっぱいに覆い、崖の中腹には富士を望む展望台をつくりました。その壁面には地域の歴史を解説した短冊を取り付け、階段にはこどもたちが作る納豆容器を型とした絵タイル、通称「納豆タイル」を埋め込みました。

こうした地域の発想を発展的に実現させたのは、一人の専門家の関わりが大きかったそうです。彼は1次コンテスト後、計画の途中段階に、行政から地域に紹介され、素早く馴染み、大人からこどもたちの意見までを粘り強く聞き入れ、プロのノウハウでそれらまとめ上げ、「夢の舞う岡」を地域と共に誕生させました。

整備後、自分が作った納豆タイルを親と探しに来るこどもたち、部活動の帰りに展望台でおしゃべりをする中学生、買い物帰りに一休みする主婦など、多くの人が利用できる場となりました。

これからは地域で同地の管理を行うとともに、イベントやイルミネーションなどの装飾を実施していくそうです。新しく生まれ変わった岡の上に、地域の夢がこれからも舞い続けます。

整備事例 1
バス停前傾斜地の緑化事業　(戸塚区)



整備が完了した「夢が舞う岡」(写真上)　花に囲まれたベンチと展望台。ベンチ廻りの花壇は、車椅子から花に触れられる高さに設計してある。火の見櫓には会のメンバー手作りのPR幕が誇らしげに飾られている。
納豆タイル制作の様子(写真右下)　納豆容器を型として、モルタル素材と磁器タイルでつくる、通称「納豆タイル」。制作には多くの小学生たちが参加した。
納豆タイルが埋め込まれた階段(写真左下)　傾斜地を周遊できる道、階段には納豆タイルが埋め込まれている。通学の度に自分たちで作ったタイルを眺めていくこどもたちが多い。

バス停前傾斜地の緑化事業 整備概要

整備主体：舞岡第二ゆめプロジェクト推進会
整備場所：戸塚区舞岡町(舞岡バス停付近)
整備内容：丸太材土留め / 植栽(中低木) / 展望台(鉄骨、木) / 階段部舗装(洗い出し、タイル) / ベンチ 等
竣工時期：平成18年11月
協力：(株)田澤園 / (有)あいランドスケープ研究所 / 舞岡小学校 / 舞岡中学校 / 戸塚土木事務所 / 戸塚区区政推進課

access map

花＊花＊花咲く まちの発明品

整備事例2　花＊花に楽々水やり（都筑区）

「せっかく植えた花は絶対に枯らせてはいけない。沢山の花がキレイに咲けば必ず街に感動を与えられる。」花＊花倶楽部の一途なコンセプトは、まち普請で見事に花開きました。

荏田南近隣センター商店街の歩行者専用道路の花壇づくりを進めてきたグループメンバーたちの課題は、水やりの設備の不足。道路上に散水設備がないため、沿道の店舗内からホースを引き出して水やりを行ってきました。ウイスキー樽を加工した雨水貯留樽などを活用し、この解決に取り組みました。

活動は、雨水貯留樽の選定・試作から始まりました。ウイスキー樽は千差万別、サイズ・デザインや蛇口や雨樋との取り付け方法など、適したものを入手するのに困難を極めました。予想外の悪戦苦闘を繰り返しつつも、メンバーの情熱でこれらを乗り越えました。こうした苦労がより良いチームワークをつくることにも繋がったそうです。

苦労の時期を経て、現在では近隣の小中学生たちが樽を気に掛けはじめ、こどもを連れた母親たちはおしゃべりの場に活用しはじめました。小学生が樽磨きに参加してくれるなど、樽は少しずつ、しかし確実に地域に浸透しつつあります。

花が人を繋げる、今はまだその仕組みをつくるための種まきの時期。このウィスキー樽の製作をきっかけとして、こどもたちやまちの人々の顔が見える関係づくりを続けていくこと。その想いが枯れない限り、決して遠くないいつか、水やりでまちに花が咲き誇るでしょう。

花＊花に楽々水やり 整備概要

整備主体：花＊花倶楽部
整備場所：都筑区荏田南五丁目
整備内容：地下貯水槽（セル型4.3立米）
　　／ 雨水貯留樽10基（ウィスキー樽、レンガ積み架台）
　　／ 樹木雨水集水器10基（シュロ縄、ペットボトル）
竣工時期：平成19年3月
協力：（株）トーテツ ／ シップス（株） ／ （株）緑住環境計画
　　／ （株）宅地開発研究所 ／ 荏田東第一小学校

access map

樽から水を採取する様子（写真上） ウィスキー樽を加工した雨水貯留樽。建物の雨樋から樽に直接水が流れ込む仕組み。樽には蛇口が取り付けられ、バケツやジョウロを常備してあるため、いつでもだれでも水を採取して花に水やりができる。
雨水貯留樽を製作するメンバーたち（写真左下） 樽の形状、デザインや、雨樋からの引き込み方法など、全てメンバーが考えて、製作も自ら行った。小さな樽にたくさんの試行錯誤が詰まっている。
樹木雨水集水器（写真右下） 樹木の根本に取り付けられた雨水集水器。これもメンバーの考案で、全て手作りで行った。数知れない実験と試作品の製作を繰り返し、ようやく現在の姿で取り付けることができた。

東海道に新たな歴史を刻む

「やっぱり東海道には松が無くっちゃいけない。」誰からともなく発せられた声に地域が動きました。

保土ケ谷宿は、品川・川崎・神奈川に次ぐ東海道の宿場町であり、街道の歴史を生かしたまちづくり活動も盛んな地域です。しかし、かつて旅人に風情を添え、街道の象徴であった「松」や、旅人の道しるべとなり、隆々とした榎を植えたと伝えられる「一里塚」は残っていません。折しも、国道1号の拡幅工事と国道に並行して流れる今井川の河川改修工事により、広幅員の歩行者空間が生まれるという情報が地域に入り、ここで冒頭の言葉が発せられました。

地域のまちづくり団体の呼びかけで自治会・町内会、小中学校、幼稚園から有志が集い、実行委員会を設立。植樹する松を選定するとともに、地域への周知を図るため、立体模型を製作、イベント等で展示。毎年正月に行われる箱根駅伝ではチラシを配布など、広報活動にも奔走しました。整備にあたり、国道は市道路局、河川は県治水事務所、と管理所轄が異なっていたため、調整は困難を極めましたが、区役所・専門家などの尽力により整備は実現しました。

実行委員会は、今後松並木の管理を行う「愛護会」に移行。松が立派に育つまでの50年、次世代に歴史を伝え未来を創造するため、この松並木は誕生しました。今、400年以上の歴史を紡ぐ東海道に新たな歴史が刻まれます。

整備事例3
東海道保土ケ谷宿 松並木・一里塚再創造プロジェクト（保土ケ谷区）

一里塚と松並木（写真上） 写真右端の一里塚は、土を盛り上げ、中央に榎を植え、周囲を自然石で取り囲むというもの。約300mのプロムナードに松の並木が続く。将来は公共事業により舗装工事も行われる予定。
クロマツの選定を行う実行委員会メンバーたち（写真上） プロムナードに植えるクロマツは、茨城県の植木畑まで出向き、1本1本丁寧に選定。現時点では樹高3～5mのものが、30～50年で10～15mに育つという。
旧東海道の案内サイン板（写真右下） 東海道の歴史的背景と整備の内容を紹介したサイン板。地元大工と歴史に造詣の深い実行委員会メンバーのコラボレーションにより実現。

東海道保土ケ谷宿
松並木・一里塚再創造プロジェクト 整備概要

整備主体：保土ケ谷宿四百倶楽部 ＋
東海道保土ケ谷宿 松並木プロムナード実行委員会
整備場所：保土ケ谷区保土ケ谷区町二丁目
整備内容：クロマツ32本 / 一里塚 / サイン板2基
（プロムナード延長 約300㍍）
竣工時期：平成19年3月
協力：(株)濱田園 / (株)サンテック / (有)USC街・空間計画
/ 保土ケ谷土木事務所 / 保土ケ谷区区政推進課
/ 道路局建設課 / 環境創造局河川事業課

access map

まちにひびけ！

地域を守る人々の声

昭和58年の設置以来、まちのシンボルだった岸谷公園の放送塔は、放送設備が塔中段に設置されていた為、使用するには塔に梯子をかけて登る必要がありました。数十年に渡り、台風や地震の都度、自治会長自身が塔に登り、放送を行っていました。

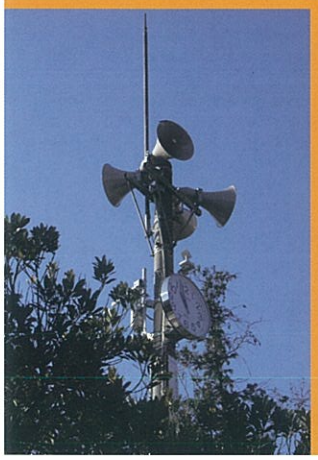
放送塔に登らずに、公園内の児童館（安心安全ステーション、通称 番屋）と自治会長宅から放送できるようにすることで、これまでの労苦の解消に取り組みました。放送回線は無線LANを使用することで設備の簡易化も考慮。また、自治会館、広報車との連絡放送設備も導入し、まち全体で防犯・防災の呼びかけができる仕組みを考案しました。

コンテストへの応募時から整備実施まで、町内会役員で数え切れないほど議論を行い、時に内部分裂さえも起こしかねないほどでしたが、結果としてこれまで以上の団結に繋がったそうです。

現在、整備をきっかけに集った10名以上のスタッフが、交代で防犯・防災の呼びかけを行っています。従来から行われている7時・12時・16時のチャイムは、これが無いと生活のリズムが狂ってしまう、と言われるほど地域住民の生活に馴染み、放送塔がまちのコミュニティの形成に一役買っています。

使いやすくなった放送塔は、地域の絆を強めるシンボルとして、これからも地域を守る人々の声をまちにひびかせていくことでしょう。

整備事例 4
岸谷公園を中心としたまちの防災・防犯拠点の再整備（鶴見区）



アナウンスをするスタッフ（写真上） 放送設備は無線LANを使用し、電話で話すように簡単にアナウンスができる。写真右端の棚に設置された機材も驚くほどコンパクトだ。
岸谷公園内に佇立する放送塔（写真左下） まちのシンボル的存在の放送塔。塔そのものは昭和58年時のものを利用して、設備のみを新設している。
青色回転灯を取り付けた広報車（写真右下） 自治会が所有する広報車に青色回転灯を取り付けた。将来はこの広報車にも無線LANを設置したいという。

岸谷公園を中心としたまちの防災・防犯拠点の再整備　整備概要

整備主体：岸谷第二自治会
整備場所：鶴見区岸谷三丁目（岸谷公園内 ほか）
整備内容：放送塔、児童館、自治会長宅への放送設備の整備（無線LAN設備の整備）
／ 上記他、自治会館、広報車間の通話設備の整備
／ 広報車への青色回転灯の取付 ほか
竣工時期：平成18年5月
協力：東芝テクノネットワーク（株） ／ 鶴見土木事務所
／ 鶴見区区政推進課

access map

外に出よう！

整備事例5　横浜寿町ホステルビレッジ街化事業（中区）

まちを彩る一坪の縁台

横浜寿町。腰を降ろすベンチも無く、不法投棄が溢れる路上。住民のほとんどが外出の機会を失いがちな単身高齢者です。このイメージを一新し、寿町に若者を引きつけ、住人に新たな雇用をもたらそうというプロジェクトが持ち上がりました。まちに点在する労働者向けの簡易宿泊施設を一般のツーリスト向けに開放し、まちを「ホステルビレッジ」化する試みです。

「一坪縁台」は、このプロジェクトの一環として考案されました。高さ50センチ、約2メートル角の巨大な将棋盤やオセロ盤であり、ベンチとしても利用できる縁台。折りたため、キャスターによって容易に移動、収納が可能。この縁台を通じて、住民たちをはじめとして、まちを訪れる若者やツーリストたちの交流が生まれることを目指しています。

縁台の製作には、元木工職人の住民たちが存分に自身のノウハウを活かし、活動に興味を持った大学生たちがそれをサポートしました。学生にとっては、学校で学んだ知識をベテランの職人から実践で学ぶという機会を得ると同時に、肌で経験する地域とのふれ合いに、他のまちにはない温かさや懐かしさを感じたと言います。

製作の過程では、新しいアイデアも生まれました。花や芝生を植えた縁台がその一つです。緑の少ない路上で、少しでも緑を増やしたい。もっと明るく賑わいのあるまちにしたい。そうした想いが縁台という形となって、かつて「灰色の街」といわれたまちに、新たな彩りをもたらしています。

縁台でゲームに興じる住民たち（写真上） 将棋、オセロ、二種類のゲームが楽しめる縁台。ゲームに興じる者、それを見物する者、縁台を通じてそれぞれにとって新たなコミュニケーションが生まれる。
新たなアイデア「花壇縁台」（写真左中央） まちに緑を増やしたいという想いから生まれた縁台。今後も、まちに彩りをもたらす「パブリックアート」として、新たなアイデアの縁台を増やしていきたいという。
縁台の製作風景（写真左下） 元木工職人である住民が縁台の製作に協力。学生たちがその指導を受けながら完成に漕ぎ着けた。

横浜寿町ホステルビレッジ街化事業 整備概要

整備主体：横浜寿町ホステルビレッジ街化事業実行委員会
整備場所：中区寿町 ほか
整備内容：一坪縁台4台（将棋、オセロ、花壇、芝生）
竣工時期：平成19年3月
協力：イコタ住建 / （財）寿町勤労者福祉協会

access map

里山がつなぐ ふるさとのコミュニティ

整備事例6
こどもの遊び場 ビオトープづくり（南区）

閑静な住宅街の片隅にあり、地権者の好意によってこどもの遊び場として活用されている広場。湧水がしみ出、草木が鬱そうと生い茂り、自然の谷戸の風景が色濃く残っています。

「この広場を有効活用してこどもたちに自然の楽しさを伝える里山をつくりたい。」これまで、区役所や空き地の地権者と相談を繰り返していた永田町上第三町内会に、まち普請という好機が訪れました。

整備は生い茂る草木を刈り取ることからスタートしました。道路に流れ出ていた湧水をポンプで上流に送り、階段状の流れや、流れをつくるために掘り出した土で築山をつくりました。土運びはこども会や小中学生たちの手を借りて住民総出で行いました。流れの縁に使用した原木の皮削りも中学生たちの手によるものです。「殿ヶ谷こども広場」と銘打たれた看板も、大工仕事が得意な住民の手により製作されました。

整備を通じて、日頃近くにいながら接する機会が少なかった人々が一つの目標に向かって一緒に作業をすることができました。こどもたちが「僕たちの広場」と胸を張り、近所を通りかかれば「何かお手伝いをすることは？」と声を掛けてくれるようになったそうです。

多くの人々の手によってつくられた里山は、これからもまちの人々のふるさととして、「コミュニティの中核を担っていくことでしょう。

流れと築山（写真上） 流れ（手前中央）には、メダカ等の水生生物を放流した。上流には、流れをつくるために掘り返した土を盛り上げた築山（右上）が見える。
原木の皮削りを行う中学生たち（写真右下） 流れ、築山の縁に使用する原木の皮削り作業に、地元中学生のサッカー部が協力。
「殿ヶ谷こども広場」看板（写真左下） まち普請の整備助成金を使わず、大工仕事が得意な住民の手により製作された看板。足下や背景の花木も、町内会で樹種を選んで植樹されたもの。

こどもの遊び場 ビオトープづくり 整備概要

整備主体：永田町上第三町内会
整備場所：南区永田町二丁目
整備内容：流れ・池（ビオトープ）／築山／湧水ポンプ施設
（広場面積 約1,800平米）
竣工時期：平成18年11月
協力：（有）金子ブロック工事／（株）ミナト電気商会
／平野設備（有）／永田小学校／永田中学校

access map

命の宝箱

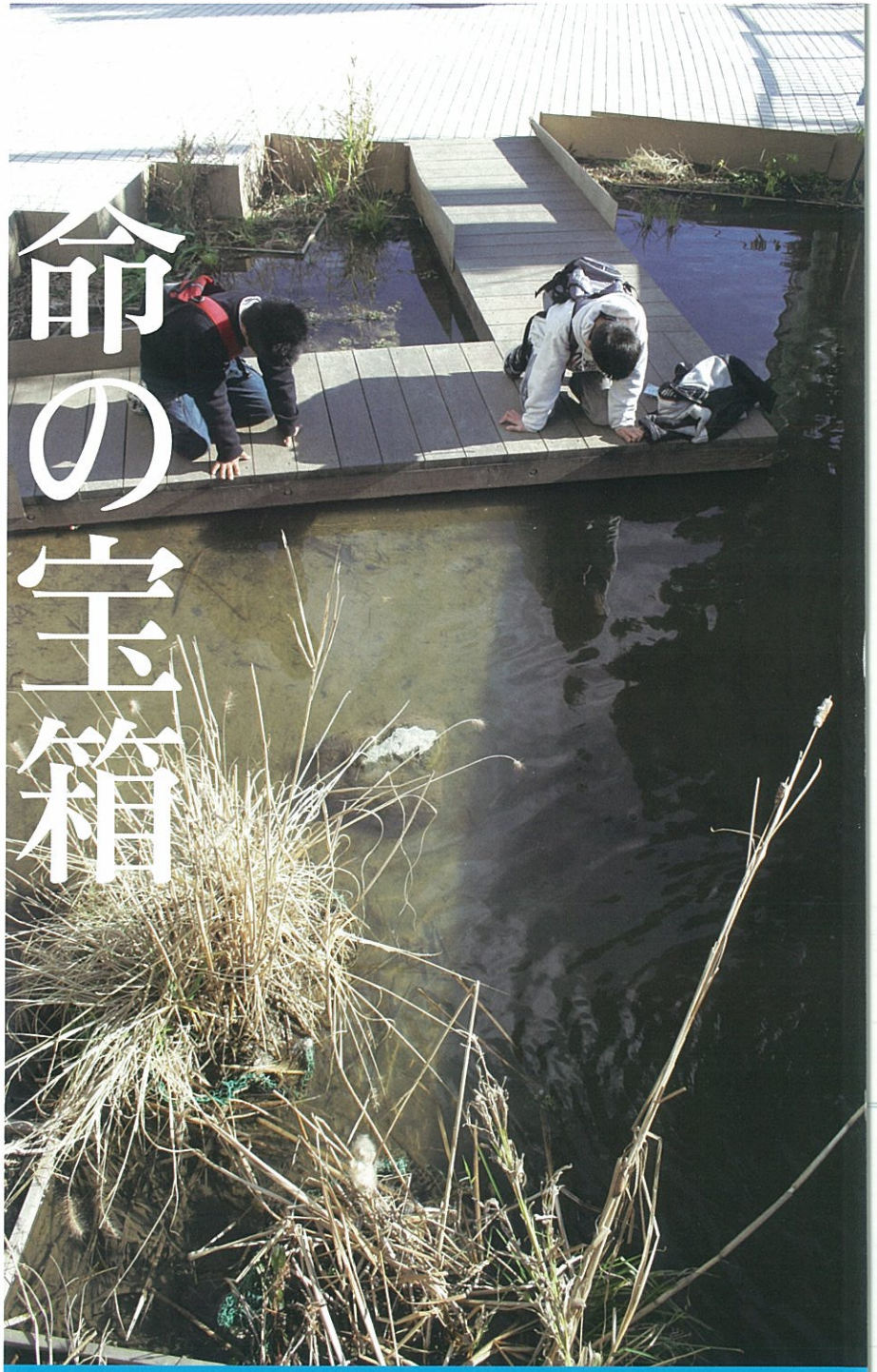
早渕川を丘の上に

港北区の高台に位置する高田東小学校は、5年生を対象に、早渕川での環境学習に取り組んでいます。これに、こどもが地域とふれ合う場を求めているPTAの思惑、そして鶴見川流域で雨水対策や自然環境に配慮した住まい方を総合的に研究しているNPO「流域共住研究会」の活動が見事に融合し、こどもたちが自然にふれる場が出来ました。

校庭の使用されていない池を早渕川に見立て、雨水貯留により、自然の水の循環を学べるビオトープとしました。池の生き物や植物は、こどもたちが早渕川で採取。これまでの環境学習が十分に活かされ、専門家さえ、ほとんど出る幕が無かったそうです。

丘の上の学校に誕生した小さな早渕川、名付けて「命の宝箱」。こどもたちの学習の場づくりとしてはじめた取り組みは、思わぬ効果を学校にもたらしました。整備にあたり、これまでほとんど交流のなかった近隣住民、特にお年寄りの協力が大きかったと言います。今では、子どもたちの環境学習の引率や、池の維持管理に積極的に協力を申し出てくれます。こどもたちが地域住民とふれあう機会が生まれ、これまで気づかなかったまちの財産（歴史や文化など）について知るきっかけともなりました。

学校では、これからも「命の宝箱」を活用し、その活動をPRしていくとともに、さらに地域との交流を深めていきたいとのことです。



整備事例7　高田東小学校における雨水貯留・浸透施設の設置とビオトープ整備による流域学習推進事業（港北区）

ビオトープをのぞき込む子どもたち（写真上） ビオトープには学校の環境学習の一環として、早渕川の様々な植物や生き物たちを、こどもたち自ら採取、放流した。
ビオトープの整備を行う子どもたち（写真左下） ビオトープの整備にあたっては、多くのこどもたちが参加。写真は池床の土を均している様子。土は近隣の畑から調達した生き物が住める最適な土を使用している。
「命の宝箱」全景（写真右下） 高田小学校校庭の一角に整備されたビオトープ、通称「命の宝箱」。雨水貯留・浸透施設（写真右側）の設置により、池には定期的に水が供給される仕組み。

高田東小学校における雨水貯留・浸透施設の設置とビオトープ整備による流域学習推進事業 整備概要

整備主体：高田東小学校の雨水利用をすすめる会
整備場所：港北区高田東二丁目（高田東小学校 内）
整備内容：ビオトープ（池/観察デッキ等） / 雨水貯留・浸透施設 / 案内板1基 / 縁台2基
竣工時期：平成18年6月
協力：雨水対策研究会 / （株）大倉工務店 / 前澤化成工業（株） / エバタ（株） / 第一機材（株） / （株）藍工業 / （株）武揚堂 / 関口園芸 他

access map

平成17年度に選考された

整備助成提案グループの声

まち普請の記念すべき第1弾となった平成17年度は、7件が整備助成対象提案となりました。様々な困難を意欲と情熱で乗り越え、多くの人々の協力を得ながら、平成18年度には全ての提案の整備が完了しました。各提案グループからは、これから整備提案をしようというみなさんに向けて、こんなメッセージが届いています。

まちへの「想い」が大切

花*花倶楽部（都築区）

提案は突飛すぎず地味すぎないこと。何よりも参加するみんなのまちへの「想い」があれば、突飛なアイデアである必要もないし、途中経過で変更を余儀なくされても気持ちがブレずに前に進んで行けます。

まちづくりの楽しさを共有しよう

保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部＋
東海道保土ケ谷宿松並木プロムナード実行委員会(保土ケ谷区)

まち普請がきっかけで多くの人たちとまちづくりの楽しさを共有できたことが収穫。コンテストを皮切りに、実際の整備まで、地域と区役所、専門家たちが楽しみながら参加できました。

これからの「地域の楽しみ方」

永田町上第三町内会（南区）

これからの「地域の楽しみ方」は、みんなで考えたものを、みんなでつくって、そこで何かを生み出して、地域に還元すること。子どもでも大人でもみんなで盛り上がれる仕組みを考えることが大切です。

少しずつ理解の輪を広げよう

舞岡第二ゆめプロジェクト推進会（戸塚区）

これまでは、町内会が公有地に手をつけるのは「タブー」という風潮がありましたが、町内会活動も時代の流れによって変わっていくべき。まち普請では「何をつくるか?」ではなく、「何をやりたいか?」という強い意志を持って、少しずつ理解の輪を広げていったことで、結果的にたくさんの人たちの協力が得られました。

地域の結束が強まった

岸谷第二自治会（鶴見区）

コンテストを通過するために、役員が話し合う機会が増え、意識が高まっていきました。やると決めたら落選することは考えられませんでした。そうした熱意が大切。整備が完了してからは住民と役員の距離が縮まり、地域の結束が強まりました。

地域と学校の壁がなくなった

高田東小学校の雨水利用をすすめる会（港北区）

これまでの学校は「聖域」。まち普請をきっかけとして地域と学校の間の壁がなくなりました。地域で子どもたちを守るという意識が再確認でき、特にお年寄りたちと子どもたちのふれあいの機会が増え、まちの歴史や文化など思いがけない財産について知るきっかけともなりました。

まち普請でまちの賑わい、楽しさを創出

横浜寿町ホステルビレッジ街化事業実行委員会（中区）

まちの賑わい、楽しさを生み出すために、まち普請は大いに活用できます。これからもまちの質を高めるための良質なデザインについて考えていくきっかけとなりました。

ヨコハマ市民まち普請事業

まち普請

まち普請に関することなら
なんでもお気軽に
お問い合わせください!

横浜市都市整備局都市づくり部地域まちづくり課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
電話：045(671)2696　FAX：045(663)8641
Eメール：tb-seibiteian@city.yokohama.jp

ヨコハマ市民まち普請事業
整備事例集 vol.1
（平成17年度 整備提案募集 整備事例集）

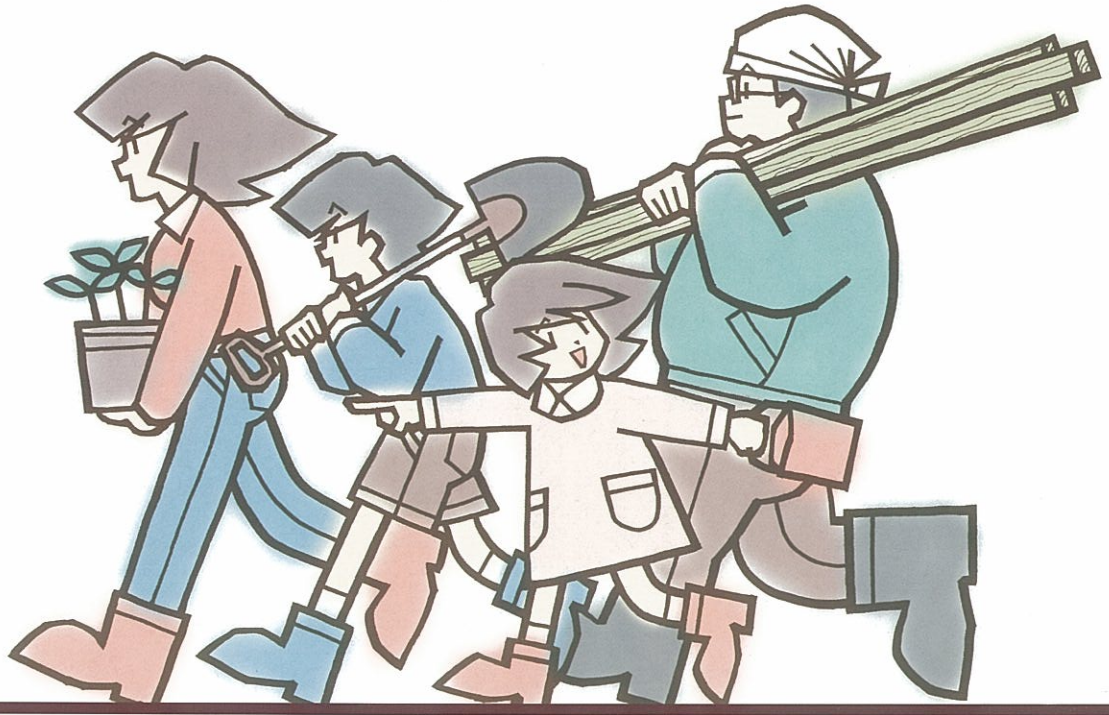
●発行
平成19年4月
横浜市都市整備局都市づくり部地域まちづくり課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641
●編集・デザイン
有限会社 USC 街・空間計画 / 合資会社 笑う門

横浜市広報印刷物登録第190098号 種別・分類 B-JJ110

まち普請

ヨコハマ人・まち
-まちの人がまちをつくる-

身近なまちづくりに役立つ無料のメールマガジン「ヨコハマ 人・まち」を読みませんか?
配信申し込み http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi

あちこち・ドキドキ・ハマのまち
都市整備局

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています